

2023年3月期 第3四半期決算 電話カンファレンス 主な質疑応答記録

日時:2023年1月31日(火) 12:00 ~ 12:45

出席者: 代表取締役 専務執行役員 経営企画本部長 杉村 英男

<セメントについて>

Q: セメントの10月以降の二次値上げについて、実績としてどのくらい積み上がっているのか、また1月以降はどの程度獲得できるものとして織り込んでいるのか教えていただきたい。

A: 具体的な数字は差し控えるが、まず一次値上げは上期で達成できたと考えている。二次値上げの3300円については、お客様との交渉が非常に厳しいものになっていると聞いている。しかし我々としては全額を目指して少しずつでも取りに行きたい。

<化成品について>

Q: 化成品の収益が2Qに比べ3Qで大きく下がった要因は塩ビ製品の市況下落によるものでほぼ説明がつくのか。また3Qから4Qにかけて、国内のフォーミュラは大きく変わらないと思われるが、大きく収益が拡大する見通しとなっており、海外の塩ビ市況をどう見ているのか伺いたい。

A: 3Qについては塩ビの海外市況が大きく落ち込んだことが主な要因となる。4Qの増益要因は苛性ソーダの価格アップやその他化学品の国内の価格修正が今後本格的に寄与してくると考えている。また塩ビの海外市況については、12月に底を脱し、今後1000ドル程度になると見えていて、その辺りの水準で売値も見えており、3Qに比べると価格については大きく増益に転じるという予想を立てている。

<ポリシリコンについて>

Q:年明けのポリシリコンの輸出価格について値上げができたのか。また2023年において、SEMIの予想ではウェハの出荷面積が0.6%のマイナス成長になるとしており、大手のウェハメーカーも1-3月は厳しいという見方をされている。そこで、来期2023年のポリシリコンの出荷や価格の見通しについて伺いたい。

A: 輸出の方の価格修正は一定程度実施している。来期についてはこれから交渉が始まるため、ご指摘のような事業環境があるとは聞いており、かなり厳しい交渉になると見ている。具体的な話をするのは難しいが、価格を含めてこれから交渉に入っていきたいと考えている。なお半導体への大きな影響が今後出てくると考えており、注視していきたい。

以上